

ロンドン大学 SOAS 東アジア言語文化学部日本語学科  
 Japanese Section, Department of the Languages and Cultures of East Asia  
 School of Oriental and African Studies, University of London  
 1999/2000 年度機関報告

田中和美

1. 機関概要

ロンドン大学の一部。学生数約 3,000 人(うち学部学生 1,500 人)。教員数約 200 人。アジア、アフリカ、中近東の 30 余りの言語文化が学べる大学として広く知られている。学生および教員は、英国出身者だけでなく、ヨーロッパ諸国、アジア、アフリカ、北米・中南米から集まっていて、国際色豊かである。

2 日本語学科

教員：Drew Gerstle 教授以下 Senior Lecturer 1 名、Lecturer 5 名(英国人 3、イタリア人 2、日本人)が近代文学、古典文学、言語学、日本文化史、日本の宗教などの専門分野を担当し、日本語教育の大部分は日本人の専任語学上級講師 1 名、講師 2 名と非常勤講師 1 名で行っている。

学生数：1 年生 23 名

2 年生 (日本留学中 22 名)

3 年生 20 名

4 年生 20 名

制度：学部は 4 年制で、単一科目専攻と、二科目専攻に分かれる。単一科目専攻の学生は、主に日本語 学科の科目で必要単位数を取るが、二科目専攻の学生は、美術・考古学、経済学、地理学、史学、法学、言語学、経営学、音楽、政治学、社会人類学、宗教学および、アジアの言語のいずれかをもう一つの専攻科目として選ぶ。割合としては、単一科目専攻の学生のほうが多い。

1997 年度より、2 年次に日本の提携校(北海道教育、慶応、早稲田、上智、東京外語、お茶の水、南山、京都外語、同志社、関西大学)へ 1 年間留学している。よって、2 年次の科目はない。

3. 日本語学科カリキュラム

各学年とも専攻内容により、必修・選択科目の組み合わせで、1 年に 4 単位を取る。

学年	科目名	週時間数	単位	備考
1	初級日本語	14	3	全員どちらかのコースが必修
	加速初級日本語	8	2	
3	日本文化史	3	1	単一専攻必修
	現代日本社会講読	3	1	全員必修：主に新聞の講読
	古文	1.5	1	単一専攻必修
	近代文学	1.5	0.5	単一専攻必修
	中級実用日本語 I	3	0.5	会話、聴解、ビデオ、LL など
	中級実用日本語 II	1.5	0.5	作文
	4	古典文学・演劇	3	1
3 または 4	近代文学	3	1	
	近代日本思想史	3	1	単一専攻必修
	上級実用日本語	3	1	作文、聴解、会話
	日本語構文論	3	1	
3	小論文		0.5	英文 5,000 語
4	論文		1	英文 10,000 語

4. 日本語コース概略

a) 初級日本語 Elementary Japanese

日本語学習歴ゼロあるいは、少しの学生を対象とする。

主教材：『*Situational Functional Japanese Vols I,II,III*』(筑波ランゲージグループ、凡人社)

副教材：SOAS 作成自主教材 ① WORKBOOK I & II (文法、翻訳練習) ② KANJI WORKBOOK I & II (漢字 665 字) ③ 読解教材、④ 作文教材、⑤ 各課復習クイズ

1 週間(1コマ50分、週14コマ)1 課で進み、23 週で全3巻を終える。出席率、宿題提出率、各課漢字クイズ、各課復習クイズ、各学期テストなどが平常点(20%)として加算され、学年末の最終試験(80%)とあわせて進級が決まる。総合的な日本語力を育成することを目的としている。

b) 加速初級日本語 Accelerated Elementary Japanese

日本語既習者、日本在住経験者、片親が日本人などの学生のため、98 年度新たに開講した。ヨーロッパからの日本語学習経験者の増加や、英国内における高校での日本語教育の広まりを鑑み、受入態勢を改善した。これは、上記の初級日本語と平行しており、従来の内容を短時間でカバーしながら、少人数制で弱点を補い総合的な力を付けることを目指す。第1 学年で入門者用と既習者用のコースを設けた試みは、日本語専攻大学としては、初めてであろう。プレースメント・テストの結果でどちらの初級日本語コースを履修するかを決定する。

c) 現代日本社会講読 Readings in Modern Japanese Society

主に新聞・雑誌記事を講読し、英訳する。

d) 中級実用日本語 Intermediate Practical Japanese

『インタビューで学ぶ日本語』、『ニュースで学ぶ日本語』、ビデオ『青春家族』衛星放送のニュース、テレビ番組等を使用。さらに、現代日本社会講読コースのテーマをもとに作文。

e) 近代思想史 Japanese Intellectual History

明治維新、大正デモクラシーなどをテーマに原文を講読、英訳。英文の文献も参考にする。

f) 上級実用日本語 Advanced Practical Japanese

『日本語で学ぶ日本』『講義を聴く技術』などのテープ、テレビ番組などで聴解をし、ディスカッションをする。また、教育、環境、人口問題などのテーマでスピーチを練習し、最終的には日本語5,000字の小論文を書き、口頭発表する。

5. 日本語学科以外の学生への日本語教育

他学部の学生や大学院生、ロンドン大学の他のカレッジ生のための選択科目として、基礎日本語 I (週3 時間、『みんなの日本語 I』使用)、基礎日本語 II (週3 時間、『みんなの日本語 II』)と大学院生用中級読解 (週3 時間、新聞など) のコースがあり、日本語教育担当教師が主に行っている。

6. 修士課程 (1 年課程)

東アジア文学、日本語言語学、日本語応用言語学の分野で修士号が取得できる。ヨーロッパ初の日本語応用言語学修士課程が 96 年度に開設され、その中には日本語の「教授法と教育実習」の講座がある。

7. Language Centre

日本語学科とは別の独立した部門で、社会人を対象に有料でアジア・アフリカの言語文化を教えている。日本語 Diploma コース、短期コース・個人教授など行っている。また、日本語教師養成講座も開講しており、この夏第 11 期生を送り出したところである。

8. 問題点と改善策

日本留学に関連して、いくつか問題点が生じている。まず、事務手続きが煩雑・申請時期が不都合・奨学金が削減されたなどがあげられる。しかし、日本語担当教師としての大きな課題は、SOAS のように 10 大学に学生を送り、また、同じ大学でも異なったレベルで 1 年間勉強して戻ってくる学生をどのように受け入れるかである。98 年 9 月の新年度にはじめて学生が戻ってきたのであるが、正直なところ日本語力の差には驚きであった。そこで、少しでも差を縮めるため、日本留学中に学んで来てほしい最低限の漢字及び文法項目を留学前に配布し、帰英時の 3 年生初頭に実力テストを課することにした。どのような成果があったかは、今年 9 月まで待たなければならない。

2 年次相当の日本語コースがないために、日本語既習者や編入生の受け入れがままにならないことが、数年懸案になっていた。解決策として既存の選択科目である大学院生用中級読解のコースを改め、学部生も受講でき、内容も中級レベルとした中級日本語コースを新年度から開講することにした。

2000 年 7 月